

令和7年度 第3回審議会の振り返り

— 令和7年度 第3回 飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録概要

開催日時	令和7年12月22日(月) 19時00分～21時05分
開催会場	飯田市役所本庁 3階 C311～C313 会議室
出席者	審議会委員(以下敬称略) 後藤正幸、三浦弥生、(オンライン)坂野慎二、(オンライン)井出隆安、會川百樹、 玉置洋一、松岡香代子、飯島政樹、山浦貞一、勝野久美恵、下沢晃世、 オブザーバー 北澤正光(飯田市教育長職務代理)
配布資料	1 次第 2 配席図 3 委員名簿 4 第2回審議会の振り返り 5 遠山郷学園における小学校の再編について 6 第2次答申及び第2次方針策定に向けた論点整理 7 本日まで議論いただく論点 8 第4回 飯田市これからの学校のあり方審議会に向けて
開会前の事務連絡	
<p>1 開会 (司会進行：後藤会長)</p> <p>2 熊谷教育長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年も残り一週間少しとなってまいりまして、お忙しい中お集まりいただいたことに感謝申し上げます。 ・市内小中学校では、保護者懇談会が終わりつつあり、早いところではクリスマスとともに年末年始休みに入るところもあります。今年は子どもにとって嬉しい暦の流れになっていまして、お勤めの皆様におかれましても、年末年始が例年より少し長めの休みが取れるのではないかと思います。 ・さて、飯田学園構想も少しずつ進めているところですが、そもそも「なぜ飯田学園構想が始まったのか」という素朴な疑問をいただく方もいらっしゃるが、改めて振り返りますと、飯田市はこれまで12年間で「小中連携・一貫教育」に取り組んでまいりました。その具体的には、「飯田キャリア教育」が最初にスタートし、その後「飯田コミュニティスクール」がスタートしましたが、学校と地域との連携、学校同士の連携を深めている最中に、コロナ禍に合い、一気に繋がりが断ち切れることになってしまったので、改めてこれまで積み重ねてきた良さを充実させるということを願いながら、不登校児童生徒数が増加してきていますので、児童生徒にとっても魅力ある学校、特色ある教育活動をぜひ創り上げていただきたいという思いがありました。また、児童生徒数が減少してきている中、各学校に配置される教員数も減少してしまい、日々の教育活動で精一杯になり、なかなか特色ある教育活動に向けて取り組むことができないという現状もございました。 ・そのような課題が一気に解決されるわけではありませんが、「みらい創造科」という総合的な学習の時間の中の一部の年間25時間程度を使って、「探究的な学び」から飯田市の「みらい創造科」はもう一步深めて、「探究する学び」になっていけたらと考えております。 ・少しずつ各学校がチャレンジしている中で、児童生徒が本当にワクワク、ドキドキしながら、学習に、探究する学びに取り組んでいる事例も出てきていると思っております。そういった「みらい創造科」の学びには、不登校児童生徒たちも「そういった学習があるなら、学校へ行きたい」と言ってくれた事例もありまして、「みらい創造科」の役割には、そういった児童生徒にとっても、楽しい学びになりつつあるのだなと大変嬉しく思ったところでございます。 ・飯田学園構想をさらに充実するために第2次答申及び第2次方針に向けて検討していただくということで、今年度3回目の審議会を迎えたわけであります。 ・今回、報告事項になっておりますが、遠山郷学園の小学校再編についても、子どもも含めて校名を募集したところ、新聞報道にもございましたとおり、「飯田市立遠山小学校」を候補としたいと再編検討委員会でまとめをいただいたところです。校名に込めた思いや理由を聞くと、本当により良い学校を創っていききたいという願いを強く感じたところでもありますし、また、地域に愛着や誇りを 	

持ってほしいということもその願いの中に込められていて、とても大事なことだと思います。そういった報告事項もお聞きいただきながら、今回の協議事項は第2次答申及び第2次方針に向けた論点整理と次回協議に向けた客観的なデータ資料の提示等もございますので、ご審議いただければと思っております。

3 後藤会長あいさつ

- ・ 前回の審議会で初めて試みたグループワークと個人ワークがありましたけれども、さまざまな視点からご発言、ご意見をいただいたと、審議会後に心ゆく思いをしたことを思い出しております。
- ・ この間、事務局では、その内容をつぶさに整理しまとめ、また先日は事前に資料送付をしていただきました。本日の会議に臨むためにご準備いただきましたこと、御礼を申し上げたいと思います。
- ・ 本日の審議会は、事前配布資料をもとに、第2次答申及び第2次方針策定に向けて、まずは今後の論点を委員みんなで共有をして、本日を含めたこれからの審議会で審議を具体的に始めていこうという位置付けかと思っております。本日も積極的なご発言、忌憚のないご発言をよろしく願います。

4 報告事項

(1) 第2回審議会の振り返り

- ・ 事務局から「第2回審議会の振り返り」に基づき第2回審議会について報告

(2) 遠山郷学園における小学校の再編について

- ・ 事務局から「遠山郷学園における小学校の再編について」に基づき遠山郷学園内の小学校再編に関する進捗状況を報告

5 協議事項

(1) 第2次答申及び第2次方針策定に向けた論点整理

- ・ 事務局(上沼教育政策課長)から、「第2次答申及び第2次方針策定に向けた論点整理」により、2次答申・方針の策定に向けた論点の整理について説明

(後藤会長)

- ・ 飯田市教育委員会から本審議会に諮問されている「小中学校のこれからの配置・枠組みのあり方」について、昨年度までの審議に加えて、今年度の最初の審議会でみんなで確認した「第2次方針の基本的な考え方」を最初に説明いただきましたが、その上に立って、前回のグループワーク・個人ワークから、今後、本審議会で審議していくテーマといたしますか、4つの論点が抽出されてきました。
- ・ 先ほども申し上げましたが、本日は事務局でまとめていただいたこの論点について、みんなで共有していく必要があると思っております、そこが非常に大事だろうと考えます。
- ・ この4つの論点整理について、委員の皆様からご意見をいただければと思います。

(山浦委員)

- ・ ポイントになってくるのは、5つの視点と4つの論点だと思います。この5つの視点は、これから議論を進めながら学校施設の配置と枠組みを検討していくにあたって、常に意識し大事にしながらやっていきたいと思います。それから4つの論点は、前回のグループワーク・個人ワーク、そして専門委員のお二方のご意見を整理した中で、この4つの論点が生まれてきたということです。そうすると4つの論点が整理され、基本的な考え方のところに、関係する視点の数字が記載されています。この部分を委員の立場から見ると、5つの視点と4つの論点を結んでいる線を、私なりに可視化する図を作成してみると、5つの視点と4つの論点がいくつかの線で結ばれることがわかります。可視化することで、5つの視点と4つの論点には、密接な関係がありブレない軸があることがよく理解できました。
- ・ 視点と論点のつながりがポイントになるということがよくわかるので、説明をある程度可視化できるようなイメージ図があると、さらに市民の皆さんには、わかりやすいのかなと思えました。

- ・ その中で1つだけ、視点4が論点1の1カ所だけしか繋がっていないのですが、実はこの視点4は、論点2、論点3、論点4にも、みんな繋がっていくようなものではないのかと思いますが、5つの視点と4つの論点が結ばれているところに、今後もブレないような軸を持って議論をしていくように方向性をしっかりと作ってきているという、そういった基盤が資料の中にはあるというように説明を聴かせていただきました。

(井出委員)

- ・ これまでに収集した情報がよく整理されていて、非常にわかりやすいです。
- ・ 先ほどの山浦委員の指摘についてですが、縦軸と横軸でマトリックスにして、5つの視点と4つの論点で20個の枠を作ってみました。4つの論点の中にあるそれぞれの下位項目が20個の枠のどこに入るのか説明を聞きながら考えてみました。どのような視点で何を議論するのかという時に、その課題はどこの箱に位置しているかが見えやすくなり、議論がしやすくなるかもしれないので、余裕があれば事務局でマトリックスを作成してみるといいかもしれません。

(坂野委員)

- ・ 今までの議論を上手に整理していただいたと思います。
- ・ 私は、地域の方たちから考えた時に、4つの論点の方から自分たちでどうするかということを出して行って、5つの視点のところに割り振りしながら見ていく方が、恐らくやりやすいのかなと思います。5つの視点については、全体としてこの視点を落とさないようにしましょうというものの見方だと思います。4つの論点については、これからの時間軸、議論していく中で、何を、どのようにしていけば良いだろうかという議論の時に、いわゆるポイントになってくるのが5つの視点だと思いますので、4つの論点を基軸に据えていただき、それを具体的に議論していく時に、5つの視点のどの部分に関わっていて、落ちはないかということを確認していただくのがやりやすいのではないかと思います。

(後藤会長)

- ・ 概ねこの論点で良いのではないかというお話でありますけども、事務局でまとめた4つの論点について、審議委員みんなで共有し、今後の議論を重ねていくということで、皆様、ご承知、ご理解いただけるということでよろしいでしょうか。
－ 委員全員 うなづく －
- ・ 皆様、うなづくいただきました。ありがとうございます。全員で合意し、今後、この4つの論点について議論を進め、第2次答申に繋げていきたいと思います。

(2) 論点1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)について

- ・ 事務局(上沼教育政策課長)から資料「本日ご議論いただく論点」により、学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)について説明

(後藤会長)

- ・ 論点1は、これからの答申や方針の根幹をなす、基本的な考え方の部分であります。具体的な4つの論点について、これまでの審議会での意見、特に前回のグループワーク、個人ワーク等の意見をまとめていただいたことを俯瞰的に見ますと、こういう方向性が見えてきますというものだと思います。
- ・ 1つ目のポイントである目的についてですが、これは振り返りも含めて、ある意味、すでに前提として位置付けているものではないかと感じていますが、委員の皆さんいかがでしょうか。目的についてはよろしいでしょうか。
－ 委員からの発言なし －

- ・ それでは、枠組みについて、また、ボトムアップ方式という点も含めて、ご発言をいただけたらと思います。飯田学園構想により、小中一貫教育の充実を図っていくという観点から見ますと、枠組みを学園とすることへの理解は当然できていると思いますが、ボトムアップという方式についても、恐らく理解はされていると思いますが、関わってご意見があるとありがたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(會川委員)

- ・ 枠組みについてですが、具体的に丘の上の場合、飯田西学園については3地区のまちづくり委員会が関与しています。複数地区のまちづくり委員会が学校のあり方について一緒に協議することは非常に難しい現状があります。
- ・ たまたま今、橋南地区につきましては、田舎に帰ろう戦略で今後どうやって人口を増やしていくかということを検討しており、色々な方々に会議に出てもらって検討をしているのですが、それをさらに複数のまちづくり委員会で一緒にやろうとすると非常に難しいところがあり

ます。枠組みを学園で考えるというのは非常に難しいところがあるので、最初はもう少し小さな組織から盛り上げていって、最終的に学園でまとめた方がいいのではないかと思います。

(後藤会長)

- ・ 枠組みはあくまでも学園ということは、ご理解をいただいているようでございます。
- ・ ボトムアップの方の関係ではいかがでしょうか。基本方針ですので、これから論点2から4に関わってくるものだと思います。

－ 委員からの発言なし －

- ・ この2つは良いということで進めていきます。
- ・ それでは次に、「こどもまんなか」を大切にすることが基本という部分につきまして、「こどもまんなか」で考えるということはどうすれば良いのかという点について、想い、ご意見あるいは感想でも結構ですが、あったら出していただきたいと思います。
- ・ P T A、保護者の方々からご発言いただけるとありがたいと思いますがいかがでしょうか。

(勝野委員)

- ・ 「こどもまんなか」はとても大事なことで、言葉としてもすごくいいなと思いますが、実際に「こどもまんなか」をどのように考えて行動したらいいのかということを個人的に考えた時に、まだ具体的にこうしたらいいとかはよくわからないというのが、正直なところではあります。

(下沢委員)

- ・ 実際にこどもの意見というのは、どのように吸い上げて、この飯田学園構想にどのくらい生かされているのかということは思います。
- ・ こどもや保護者の意見を吸い上げていくと、ボトムアップというのは素晴らしいと思いますが、かなり時間も要してしまうのかなということも思っています。前回審議会でもありましたとおり、期限を定めるということも、一つ大事な事かなと思いました。

(松岡委員)

- ・ 学園の合同職員会で「みらい創造科」について学習をしたが、その後の学園内の「みらい創造科」カリキュラム編成のメンバーで話をしている中では、教員側、大人側が思っている探究と、こども自身が探究したいこと、突き詰めて考えたなど感じたことは、もしかしたらズレているのかもしれないという話がありました。やはり大人の考えだけではなく、こども自身がどう思っているのかなということも必要だと感じました。
- ・ こどもは本当はどう思っているのかなということ、こちらがこどもに問いかけて、こどもから学ぶというように、大げさなことではないですけど、「こどもまんなか」の意識は、そのようなこともあるのかなと考えています。

(飯島委員)

- ・ 学校現場も「こどもまんなか」を意識した学校づくりにしようということが盛んに言われており、県や市もそれを実現しようという動きは大きくあると思います。
- ・ しかしながら、なかなか現場の状況からすると、変わりにくい面もあるというか、こどもをまんなかにした学校とは、具体的にどのような学校なのかということが、教員の理解もさまざまであり、特に緑ヶ丘中学校は大規模校ですので、そういった学校の様子をガラッと変えることができるかという、なかなかそうならない現実があるというのが今の実感です。何とか変わっていきなという願いはありますけれども、短期間では難しさを感じているところです。
- ・ 今までの論議を聞いていて感じたことは、やはりこどもも中学校3年間で卒業していきますし、保護者も学校との関わりがなくなっていくということで、時間との戦い、時間の流れをどのように捉えて、この議論を進めていくことがいいのかということは、非常に大事なポイントではないかと思えます。また、学園の概念についても、時間が経過していくことによって変わっていくところもあるのではないかと考えています。

(山浦委員)

- ・ ポイント①の目的の確認のところ、飯田学園構想の中で、これからの時代に児童生徒が主体的に、また他者と協働しながら生き抜いていく力を身に付けることが謳われています。それは、こどもが自分事として責任をもって行動する力や他者との関係性の中で、学校や地域という中の他者との関係性の中で生き抜いていける力の基礎を磨いていくことだと思います。
- ・ こどもが主役になるということは、結果的には、その学校や地域、それぞれの大人、そういった集合体や関わる人たちも一緒になって成長していくことだと考えます。こどもだけではなく、受け皿となる地域の大人が自らも一緒に成長し、それによって円熟していく豊かな地域となっていくことが、まさに「こどもまんなか」社会を創っていくことになるのではないでしょう

か。こどもを主役にしていく考え方でやっていくということが、とても大事なのではないかなと感じています。

(後藤会長)

- ・今、私たち自身が「こどもまんなか」とはどうしていったらいいのかということを考えていること自体が、とても重要なことだということは私自身も感じますし、それは、それぞれの現場で、それぞれの地域で、それぞれの学校で、そのことの間いを忘れたらいけないということとは、非常に感じたところです。
- ・「こどもまんなか」ということは、ある意味ではイデア的な、いわば思想的なものでもあるかもしれませんが、これを大事にしていこうということについて、特に異論があるわけではなく、難しいこともあります。やはりやり抜かなければいけないなと思ったところです。
- ・それでは、協議検討の主体のところについて、検討の主体は地域でという意見が出されていて、学校づくりは地域づくりの精神のもと、まちづくり委員会が主体となって検討することが大切であるという意見もでていますが、このことについてご意見をいただけたらと思います。

(玉置委員)

- ・まちづくり委員会が学校運営協議会に参画していたり、公民館長も学校運営協議会委員に入っています。その中で、遠山郷学園の取組を進めているところですが、まちづくり委員会では色々課題があるが、その中の一つに学校のあり方があり、当然その課題をみんなで共有するということはできていると思います。
- ・もう一つ、南信濃まちづくり委員会として自信を持っていることは、地区の人口は少ないのですが、組合加入率が90%を超えているということです。そういった意味では、地域住民の皆さんの意見を集約しやすい状況にありますので、学校のあり方に関することも含めて、地域の課題については、まちづくり委員会で議論をしていくということだと思います。

(會川委員)

- ・先ほどもお話ししましたが、まちづくり委員会は、あくまでも地域づくりのためにあるのであって、地域づくりのためには、中学生からの意見も聞いていかなくてはならないという話がたくさん出てきました。先ほど話をした田舎へ還ろう戦略に関することではありますが、中学生から「自分たちのまちを守るには、人口を増やしていくしかない」という意見があり、一緒に会議に参加したいというところがあって、一緒にやりましょうということになりました。
- ・小学生や中学生から、まちづくり委員会に対して色々な話が出てきていて、そうしたら、この飯田学園構想のことも話題に出てきたので、徐々に一つにまとまりつつある状況です。本当に嬉しいことであり、これも一つのまちづくりの良かった面かと思っております。

(後藤会長)

- ・学校づくりは地域づくりの精神が共有されているというお話がありました。
- ・もう一つ、4つ目の市教育委員会の姿勢に関する部分についても、ご意見をお聞きできたらと思います。

－ 委員からの発言なし －

- ・特になしということでもよろしいでしょうか。皆様方、このとおりであろうということでもよろしいでしょうか。それでは、最後に、井出委員と坂野委員からご発言をいただきたいと思います。

(井出委員)

- ・行政が多く予算を確保して地域活性化プランをつくり、何とかしようとしても、なかなか実現していかないことが現実だと思います。でも、華々しい成果は生まれてこないけれど、少しずつお互いがわかり合って何とかしていこうとすること、それはもちろん当事者として考えていかなくてはならないけれども、隣の組織やあるいは必要であれば中学生や小学生も含めて意見を聞いて、それを自分たちが住んでいる地域の活性化に繋げていこうという取組はとても大切なことです。
- ・今回は、具体的に学校をどうつくっていくかというテーマになっているわけですが、委員の方々のお話を伺っていて、大変な中で議論を重ねながら、地道に進んでおられることは大変素晴らしいことだと、改めて感じました。
- ・さて、今後についてですが、市教育委員会や市長部局から具体的に方向を提示していくということが必要になってくるわけですが、その一つの例として、学校のあり方を検討する目的のところでも説明がありましたが、「こどもたちを豊かに育ていくためのこどもの学びの環境を整備する」ということがあります。「豊かに育ていく」ということはどういうことであり、学びの環境をどのように整備したらいいのかということについての議論が必要です。

- ・例えば、学びの環境を整備していくといった場合に、児童生徒の人数が多い方が良いとか、少ない方が良いといったレベルの話は、もちろん初期の段階では必要ですけれども、いくつか考えが進んでいく中で、例えば、学びの環境を整備していくといった場合に、学級数をどうするのか、あるいは指導組織をどうつくるのか、また、管理組織、学校運営組織をどうつくるのかといった具体的なことについて、数字を出して検討していく時が来るわけです。
- ・どれくらいの学級数が子どものために良いのかという議論はなかなか難しく、簡単に結論は出ませんけれども、審議会でも議論されている複式学級になるのは避けたいという意見はわかりやすいことだと思います。そうすると、それに必要な学級数はどう確保していったらいいのか検討する必要があります。それから中学校の生徒数が少なくなってきて、専門教科の担当教員が必要数を割り込むようなことになった場合に、指導組織をどうつくっていったらいいのか、そうした場合の最低限の学級編成はどうするのかといったことも検討しなくてはなりません。
- ・学校の規模、あるいは児童生徒数、標準法を基にした教員数等の資料は、どんな教育環境が望ましいのかということも議論していく手がかりになっていくかと思っておりますので、教育委員会事務局ではそういった情報を提供していただきたいと思います。
- ・飯田東学園の話をしていく間に色々な人が関わってきて、中学生にも参加してもらい、小学生にも繋がっているというお話をお聞きして大変心強く思いました。ぜひ、地道に取り組んでいただきたいと思います。

(坂野委員)

- ・数のことについては井出委員からお話がありましたので、私の方からは「子どもまんなか」ということを進めていく時に、もう一度原点に戻っていただけると良いかと思っておりますので、お話しさせていただきます。令和3年1月26日の中教審答申で、「令和の日本型学校教育の構築を目指して」というものが出されたことは、恐らく教育関係の皆様はよくご存知かと思っております。その中で、大きく2つのことが言われています。1つが、「個別最適な学び」、もう1つが「協働的な学び」です。「個別最適」という場合には、それぞれ個々に良いことであり、これは普通に考えていくと、人数が少ない方が良いということになるかもしれませんが。一方、2つ目の「協働的な学び」というのは、数が多い方が色々な考え方、価値観をお互いに学び合えるということだと考えると、実は児童生徒数の多い、少ないということ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」というのは、ある意味で背反するような中身が含まれているということになります。今、大学生と議論をする時に思うことは、この「協働的な学び」という、いわゆる他の人の意見を取り入れながら自分の考え方をより強くしていく、より良い方向に向けていくというやり方があまり得意ではない方が多いということが、教えていて実感することです。これはまさに、本気で相手と議論をするということが、なかなかこれまでの学校教育ではできてこなかったということの表れなのだと思います。特に今の大学生たちは、中学生時代にコロナ禍を経験していますので、まさに一番議論して自分の考えを豊かにする時期に、そういった経験が思った通りにできなかった世代です。
- ・飯田市の今の議論をお聞きしていて、まさにそうした部分をいわゆる小中一貫教育という形で伸ばそうとしているのかなと私は解釈しましたので、とても良い実践をしようとしているという気がしております。
- ・ただし同時に、その「協働的な学び」において、違う意見を自分に取り入れることが上手にできているかどうか、また、それがうまくできるような環境を作るのに、この学校ということをもどのように意味付けていきますかということも、今後の議論の際に、ぜひ思い出していただけたらと思っております。

(後藤会長)

- ・委員の皆様方のご意見をお伺いしながら、ほとんどの委員の皆様方が、この大事なポイントについて、ご理解いただいて、また、ご同意いただいていると感じましたが、いかがでしょうか。
- ・今回議論した論点1については、これからの答申と方針の策定に関わる基本的な考え方に当たる部分であるということも再度確認して、皆様方の意見を踏まえながら、第2次答申に繋げていきたいと思っております。

(3) 第4回 飯田市これからの学校のあり方審議会に向けて

- ・事務局(上沼教育政策課長)資料「第4回 飯田市これからの学校のあり方審議会に向けて」により、次回審議会に向けてご準備をいただくよう依頼

6 連絡事項

7 閉会挨拶

(三浦副会長)

- ・ これからの学校のあり方というものを話す時に、こんなにも丁寧に大切に進めていくということを改めて感じました。
- ・ 4つの論点と5つの視点について確認をいたしました。また、論点1の基本方針につきましても、学園という枠組み、「こどもまんなか」、そして「学校づくりは地域づくり」ということでのまちづくり委員会が中心となること、そして、市教育委員会の姿勢がどのようなものであるかということも確認いただいたと思います。
- ・ 私の中に一番残っておりますのは、「こどもまんなか」のところで、何とも簡単に考えておりましたけれども、これは難しい一つの見方、考え方であったのだということを改めて感じております。私が考えたところでは、「こどもまんなか」と言いますと、こどもがこどもの中で成長していくと、そんな姿ばかりを考えておりましたけれども、こどもから学ぶ、そして、周りにある集合体自身が、こどもとともに学んでいくといったところが、「学校づくりが地域づくりである」というところに繋がっているのだなど、改めて感じました。
- ・ ただいまをもちまして、令和7年度第3回飯田市これからの学校のあり方審議会を閉じさせていただきます。